

希望のひかり 第74回

今回は「科学」や「宇宙の謎に迫る」をキーワードに、ILCと関係の深い国立天文台水沢VLBI観測所についてお知らせします

記念式典



常田台長から市に感謝状などを贈呈

く貢献し、国立天文台水沢の創立120周年に花を添える成果となった。地元の皆さまの支援に厚くお礼申し上げます」とあいさつしました。

来賓の達増拓也知事は、「功績が岩手の地で生まれたことは県民の誇り。先人たちが築いてきた科学技術の歴史の上に、ILC計画など新たな時代がやって来ようとしている」と述べました。小沢昌記市長や藤原崇衆議院議員、小平桂一元国立天文台長も祝辞を寄せました。

その後、本間所長が「120年の歴史」と題して講演。国立天文台水沢の歩みをスライドで紹介し、「水沢の発展と共に、国立天文台水沢は歩んできた。次の120年も変わらぬ支援をお願いしたい」と語りました。

国立天文台水沢VLBI観測所は、1899年に前身である臨時緯度観測所として開設してから120周年を迎えました。木村榮初代所長が発見したZ項を皮切りに、史上初のブラックホールの撮影成功への貢献、小惑星探査機「はやぶさ2」の運用に携わるなど、世界の天文学をけん引しています。

12月には、国立天文台水沢創立120周年記念の関連事業が開催され、国立天文台水沢と地域の歩みや最新の宇宙研究が紹介されました。

今回の希望のひかりでは、この記念事業の様子をお知らせします。

14日にプラザイン水沢で、国立天文台水沢創立120周年記念式典が開かれ、関係者や来賓など約200人が参加しました。

常田佐久国立天文台長は式辞で、「ブラックホールの撮影成功は、本間希樹所長をはじめとする水沢チームが大きな

★アテレイII解説パネル設置

市は、国立天文台水沢キャンパス内にスーパーコンピュータ「アテレイII」の解説パネルを設置し、14日に除幕式を行いました。

アテレイIIは天文学専用として世界最高の性能を誇る



関係者が出席して行われた除幕式

記念講演

15日にはZホールで、記念講演会「120年目の最新宇宙研究」が開催されました。市内外から天文ファンなど約400人が聴講。本間所長ら4人が登壇し、120年の歩みを踏まえた最新の研究や、木村初代所長の功績などについて講演を行いました。

★講演の内容

①本間希樹・水沢VLBI観測所長

国立天文台水沢120年の歩みと、ブラックホールの撮影などについて紹介。「地域の皆さんと一緒に、120周年を祝えることをうれしく思う。次の120年に向かって研究を続けたい。プ

②竝木則行・RISE月惑星探査プロジェクト長

国際宇宙探査について、月や小惑星「リュウグウ」の形状などを写真も交えて紹介。国立天文台水沢は地形観測などに大きく貢献しています。

③小久保英一郎・天文シミュレーションプロジェクト長

国立天文台水沢が運用するスーパーコンピュータ「アテレイII」とシミュレーション天文学を紹介。「ブラックホールの撮像には、確認としてアテレイIIでの計算も行われた。望遠鏡では見



スクリーンの前で講演する本間所長

「アテレイII」の撮像には、確認としてアテレイIIでの計算も行われた。望遠鏡では見



「リュウグウ」の形状などを写真も交えて紹介。国立天文台水沢は地形観測などに大きく貢献しています。



国立天文台水沢が運用するスーパーコンピュータ「アテレイII」

Interview 講演を聞きに来た子どもたちの声——



高家 大翔 君 (盛岡市、中学1年生)

アテレイがシミュレーションして作った動画がかっこいいと思いました。講演会后、本間教授に直接ブラックホールのことを聞くことができうれしかったです。将来は、天文学に関することをやりたいと思っています。



池田 崇大 君 (常盤小学校2年生)

宇宙のことが大好きです。Z分団に入っているし、奥州宇宙遊学館にもよく通っています。竝木先生の「はやぶさ2」や小惑星「リュウグウ」の話が面白かったです。将来は、JAXAで働きたいです。



木村初代所長の活躍や人となりを当時の貴重な写真を織り交せて

④一橋大学社会科学古典資料センター 馬場幸栄助教

えない宇宙の謎を解くため、物理の法則で計算してシミュレーションしていくのがアテレイIIの役割

悪天候で観測ができなかったとき、子どもと映画館に行った木村初代所長が、ふいに天候が良くなり子どもを置いたまま観測所に駆け付けた、といったエピソードが紹介され、来場者は興味深く耳を傾けていました。

紹介。幼少期や、臨時緯度観測所所長着任から退官までの観測や地域との関わりの様子を解説しました。

国立天文台水沢 創立120周年記念

★天文台略年表 since1899



臨時緯度観測所庁舎 (現・木村榮記念館) ©国立天文台



旧緯度観測所本館 (現・奥州宇宙遊学館) ©馬場幸栄 ©国立天文台

- ▼1899 (明治32) 年 臨時緯度観測所を設置
- ・国際緯度観測事業が発足
- ▼1902 (明治35) 年 木村榮がZ項の論文を発表
- ▼1920 (大正9) 年 臨時緯度観測所から緯度観測所へ
- ▼1941 (昭和16) 年 木村榮が退官
- ▼1970 (昭和45) 年 緯度観測所の研究員・若生康二郎がZ項の原因を解明
- ・1988 (昭和63) 年 緯度観測所から国立天文台水沢へ
- ▼2001 (平成13) 年 VERA電波望遠鏡を建設
- ▼2008 (平成20) 年 S2009 (同21) 年 月探査機かぐやの国際VLBI観測
- ▼2013 (平成25) 年 スーパーコンピュータ・アテレイを設置
- ▼2018 (平成30) 年 スーパーコンピュータ・アテレイIIを設置
- ▼2019 (平成31) 年 はやぶさ2が小惑星リュウグウへの1回目タッチダウンと人口クレーターの形成に成功
- ・EHTが巨大ブラックホール撮像の成功を発表
- ▼2019 (令和元) 年 はやぶさ2が小惑星リュウグウへの2回目のタッチダウンに成功

本コーナーでは、ILC計画について皆さんからの質問にお答えします。電子メール、ファクスでも気軽に質問ください。お問い合わせ先：本所1階推進室 (03-34-22-223) 国研推進部 ILC of by. osu. hrate. jp